

第2章 明朝体と筆写(手書き)の楷書との関係について(具体例) (案)

本章は、常用漢字表「(付) 字体についての解説」の内容に従って、明朝体と筆写(手書き)の楷書との関係について、具体例を挙げて説明するものである。このうち「2 明朝体のデザインについて」以降は、「字体についての解説」に示された項目を同じ順で取り上げ、説明と具体例を増やしてより活用しやすいよう工夫した。

特に、「3 明朝体に特徴的な表し方があるもの」「4 筆写(手書き)の楷書では、いろいろな書き方があるもの」においては、該当する項目に関わる構成要素の例を掲げ、その構成要素を持つ常用漢字の例を挙げた。

その際、手書きの楷書による字形の例を幾つか示した上で、「◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例」欄に、手書きの楷書の例に示したものと同様な書き方をすることのある常用漢字のうち、主に中学校までに書くことができるよう習得されるものを中心に常用漢字表が掲げる明朝体で例示した。あわせて、特に説明等が必要な漢字には「※」を付し、各項の最後に注記を行った。これらのうち、本章に手書きの楷書による字形の例が示されていないものについては、付2「字形比較表及び索引」を参照することによって確認ができる。

なお、ここで用いる「構成要素」とは、漢字の字形において部分を成す点画の一定のまとまりのことであり、部首として一般に用いられるものも含むが、その限りではない。加えて、ある字種がそのまま構成要素ともなる場合や、字源を異にするものを同じ構成要素として整理している場合もある。構成要素を用いた分類のし難い漢字がある場合については、「その他」として、それらをまとめて示した。

また、本章に例として挙げた手書きの楷書による字形は、飽くまでもその漢字において実現し得る字形のごく一部であり、例示された字形は固定的なものではない。

1 筆写(手書き)の楷書と明朝体の歴史について

手書きの楷書は、中国の後漢末頃(2～3世紀)に隸書の補助書体であった行書の連続性を排し直線的に整えて生み出されたもので、一点一画を連続や省略をせずにはっきりと書く書体をいう。それ以降、隋・唐(6～10世紀)の時代にかけて、その端正さや読みやすさなどから、主たる書体の一つとして発達し、古くは「真書」「正書」などとも呼ばれた。現代の日本でも、学校教育において最初に習得する書体であるとともに、公の書類などに手書きする際には、楷書で書くよう求められることが多い。一方、明朝体は明(1368-1644)の時代に、まずは中国で、後に日本でも、印刷のための版木(板木)を彫刻するのに適した、また、印刷文字として読むことに特化された、手書きの楷書に基づく書体と

して用いられるようになったものである。このように、手書きの楷書字形と明朝体は発展の過程が異なるものであって、それぞれに独自の特徴や習慣があるため、両者の間で字形の違いが見られる場合も少なくない。

唐代以降、それまで主に筆で手書きされていた漢字が、版木に彫って印刷されるようになった。木版印刷が行われるようになった当初は、木に彫られる文字にも手書きの楷書に倣ったものが用いられたが、楷書の字形を版木に彫るには、曲線や点画の微妙な角度などの再現が必要となって手間と時間を要した。宋（960－1279）の時代には、量産化のために、字画が少しずつ直線化しはじめ、元（1271－1368）の時代を経て明に入ると、出版印刷業の更なる発展とともに、以前よりも木版印刷に速さや効率が求められることとなり、必要に応じて複数人で分担することが容易となる彫りやすい字形が追求された。その結果、彫る人それぞれの癖や技術が表れることのないよう、点画を直線化し、横画と縦画をなるべく直角に交わるようにすることで、微妙な曲線や角度が表れるのを避けるようになった。加えて、読むことに特化された字形であることから、文字を縦に並べたときに読みやすくなるように、縦画を太く、横画を細くし、いわゆるウロコやヒゲを付けるなどの様式化が行われた。このような印刷に用いられる特有の字形を持った書体の体系として生じたのが明朝体である。

曲線状の「はらい」や「はね」など幾何学的模様が調和し洗練されたデザインの明朝体は、18世紀のフランスにおいてローマン体とうまくマッチする漢字の金属活字の書体として作られるようになった。19世紀初め頃に、この明朝体活字はアジアにもたらされ、中国を中心としたキリスト教布教のためにマラッカやマカオなどで聖書などの活版印刷に用いられるようになった。ウィリアム・ギャンブル（ガンブルとも William Gamble）は、明朝体活字に大きさの段階を設けた号数活字を導入するなど改良を加えて、印刷の質と効率を向上させた。明治2年（1869年）、ギャンブルは長崎に設立された活版伝習所に招かれ、活字の鑄造、組版の技術を伝えた。翌年、中国の明朝体をもとに日本の活字製作が始まり、明治6年（1873年）には築地活版製造所が設立された。当初、母型の製造技術は拙く、種字彫刻も中国に依存していたが、明治17年（1884年）以降はバランスのとれた美しい独自の書体が整備されていった。これが「築地体（築地明朝体）」と呼ばれ、近代の明朝体活字の源流となった。この築地活版製造所から活字を購入して、明治9年（1876年）に創業したのが秀英舎で、翌、明治10年（1877年）には中村正直まさなお訳「改正西国立志編さいこくりっしへん」を、日本で初めて、用紙からすべて純国産による活版洋装本として製作した。その後は自社で活字を鑄造するようになり、新たな明朝体活字を持つようになった。これが「秀英体（秀英明朝体）」と呼ばれるもので、築地体（築地明朝体）よりも縦線のやや細いものであった。こうして、版木から金属の活字へと発展していく過程で、正方形を埋めるような字形へと変化していくとともに、近年では情報交換用にデジタル化されたフォントとしても、デザイン上様々な特徴を凝らしたものが次々と作られてきている。

以上のように、明朝体は、印刷用の文字から活字の文字へ、さらに、アナログの活字からデジタルフォントへと変化し、細部で微妙に異なる様々な字形を持つに至っている。今日において手書きの楷書体と明朝体とに字形の違いが見られるのは、こうした経緯を背景とするものである。

2 明朝体のデザインについて

常用漢字表では、個々の漢字の字体を、便宜上、明朝体のうちの一種を例に用いて示している。これは、現在、印刷文字として明朝体が最も広く用いられていることによる。

一般に使用されている各種の明朝体には、同じ字でありながら、微細なところで形の相違の見られるものがある。しかし、それらの相違は、いずれも書体設計上の表現の差、すなわちデザインの違いに属する事柄であって、字体の違いではないと考えられる。つまり、それらの相違は、字体の上からは全く問題にする必要のないものである。以下に、分類して、明朝体におけるデザイン差の例を示す。

なお、ここに挙げているデザイン差は、現実異なる字形がそれぞれ使われてきており、かつ、その実態に配慮すると、字形の異なりを字体の違いと考えなくてもよいと判断したものである。すなわち、実態として存在してきた異字形を、デザインの差と、字体の差に分けて整理することがその趣旨であり、明朝体をはじめとする印刷文字の字形を新たに作り出す場合に適用し得るデザイン差の範囲を示したのではない。また、ここに挙げているデザイン差は、おおむね「筆写の楷書字形において見ることができる字形の異なり」と捉えることも可能である。

(1) へんとつくり等の組み合わせ方について

漢字のへんとつくり等の組合せに、以下に挙げるような相違がある場合にも、極端な場合を除いて、字体の違いと考えなくてもよい。

① 大小、高低などに関する例

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
硬 硬 吸 吸 頃 頃

② はなれているか、接触しているかに関する例

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
睡 睡 異 ← 異 ← 挨 挨

(2) 点画の組み合わせ方について

漢字の点画の組合せ方において、以下に挙げるような相違がある場合にも、極端な場合を除いて、字体の違いと考えなくてもよい。

① 長短に関する例

→ 雪 → 雪 → 雪 満 ← 満 ← 無 ← 無 ← 斎 ← 斎 ←

② つけるか、はなすかに関する例

発 発 備 備 奔 奔 溺 溺
空 空 湿 湿 吹 吹 冥 冥

③ 接触の位置に関する例

岸 岸 家 家 脈 脈 脈
蚕 蚕 印 印 蓋 蓋

④ 交わるか、交わらないかに関する例

聴 聴 非 非 祭 祭
存 存 孝 孝 射 射

⑤ その他

芽 芽 芽 夢 夢 夢

(3) 点画の性質について

点画の表し方について、以下に挙げるような相違がある場合にも、極端な場合を除いて、字体の違いと考えなくてもよい。

① 点か、棒（画）かに関する例

帰 帰 班 班 均 均 麗 麗 蔑 蔑

② 傾斜、方向に関する例

考 考 値 値 望 望

③ 曲げ方，折り方に関する例

勢 勢 競 競 頑 頑 頑 災 災

④ 「筆押さえ」等の有無に関する例

芝 芝 更 更 伎 伎
八 八 八 公 公 公 雲 雲

⑤ とめるか，はらうかに関する例

環 環 泰 泰 談 談
医 医 継 継 園 園

⑥ とめるか，ぬくかに関する例

耳 耳 邦 邦 街 街 餌 餌


※ 上記の「とめるか，ぬくかに関する例」は，斜めの画に関するものである。明朝体のデザインにおいて，縦画の終筆はぬくように表さず，とめた形にされる。

⑦ はねるか，とめるかに関する例

四 四 配 配 換 換 湾 湾

⑧ その他

→次→次^{*}→姿→姿

※ 「次」は，元々「にすい」ではなく，「二」を成り立ちに持つ形である。明朝体でも「」の形であった。

(4) 特定の字種に適用されるデザイン差について

「特定の字種に適用されるデザイン差」とは，以下の①～⑤それぞれの字種にのみ適用されるデザイン差のことである。これらはいずれも，平成22年の常用漢字

表の改定において追加され、現実に異なる字形がそれぞれ使用されており、かつ、その実態に配慮すると、字形の異なりを字体の違いと考えなくてもよいと判断できるものに含まれる。ただし、下記①～⑤については、その字形の異なりを他の字種、特に、昭和56年の常用漢字表に既に採用されていた字種には及ぼせないと判断し、このような扱いとしたものである。

したがって、明朝体においては、それぞれに具体的な字形として示されているデザイン差を他の字種にまで及ぼさない。

① 牙・牙・牙

※ 明朝体の「牙」については、このようなデザインのバリエーションがあり得るが、同様の又は似た構成要素を有する「芽」「雅」「邪」など、他の常用漢字については、左の字形の部分（「𠂇」）は用いない。

② 韓・韓・韓

※ 明朝体の「韓」については、このようなデザインのバリエーションがあり得るが、同様の又は似た構成要素を有する「偉」「緯」「違」など、他の常用漢字については、中央の字形の部分（「𠂇」）は用いない。

③ 茨・茨・茨

※ 明朝体の「茨」については、このようなデザインのバリエーションがあり得るが、同様の又は似た構成要素を有する他の常用漢字のうち、「恣」については、左の字形の部分（「𠂇」）を用いる。「恣」以外の「凝」「姿」「諮」「次」「准」「凍」「冷」「洽」「凄」などについては、左の字形の部分（「𠂇」）は用いない。

④ 叱・叱

※ 明朝体の「叱」と「叱」は本来別字とされるが、その使用実態から見て、異体の関係にある同字と認めることができる。「叱」については、上に示すようなデザインのバリエーションがあり得るが、同様の又は似た構成要素を有する「七」「虞」「虜」「虚」「虐」「虎」「膚」「窃」「戲」「慮」「劇」「切」など、他の常用漢字については、右の字形の部分（「七」）は用いない。

⑤ 𠂇・𠂇

※ 明朝体の「𠂇」については、このようなデザインのバリエーションがあり得るが、似た構成要素を有する「𠂇」については、左の字形の部分（「𠂇」）は用いない。

2付 手書き文字のいろいろな書き方に明朝体のデザイン差と共通するところがあるもの

「2 明朝体のデザインについて」で見たデザイン差の分類については、おおむね「筆写の楷書字形において見ることができる字形の異なり」の分類として見ることも可能である。「2」の分類に従って、手書きの楷書における字形のバリエーションの例を以下に示した。

なお、ここに挙げた例のうちには、「4 筆写の楷書では、いろいろな書き方があるもの」にも掲げているものがある。また、具体的な書き方の例については、手書きする際の慣用として、より一般的であると考えられるものがある場合には、それを先に示したため、「2 明朝体のデザインについて」と同じ順序にはなっていない。

(1) へんとつくり等の組み合わせ方について

① 大小，高低などに関する例

硬 硬 吸 吸 頃 頃

② はなれているか，接触しているかに関する例

睡 睡 異 異 挨 挨

(2) 点画の組み合わせ方について

① 長短に関する例

雪 雪 雪 満 満 無 無 斎 斎

② つけるか，はなすかに関する例

発 発 備 備 奔 奔 溺 溺
空 空 湿 湿 吹 吹 冥 冥

※ 「溺」は手書きの楷書では「溺」のように書かれることが多い。

③ 接触の位置に関する例

岸 岸 家 脈 脈 脈

蚕 蚕 印 印 蓋 蓋

※ 明朝体の「家」の字形は、手書きの楷書では用いないのが一般的である。
したがって手書きの例は示していない。

④ 交わるか、交わらないかに関する例

聽 聽 非 非 祭 祭
存 存 孝 孝 射 射

⑤ その他

芽 芽 芽 夢 夢 夢

(3) 点画の性質について

① 点か、棒（画）かに関する例

歸 歸 歸 班 班 班 均 均 麗 麗 蔑 蔑

② 傾斜，方向に関する例

考 考 値 値 望 望

③ 曲げ方，折り方に関する例

勢 勢 競 頑 頑 災

※ 手書きの楷書では、2画に見えるような折り方の表現はしないのが一般的である。

④ 「筆押さえ」等の有無に関する例

※ 手書きの楷書では、明朝体のような筆押さえの表現はしないのが一般的である。したがって、手書きの例は示していない。

⑤ とめるか，はらうかに関する例

環←環← 泰泰 談←談←

医←医← 継←継← 園園

⑥ とめるか，ぬくかに関する例

耳耳 邦邦 街街 餌餌

⑦ はねるか，とめるかに関する例

四←四← 配配 換換 湾湾

⑧ その他

→次 →姿 ※

※ 「次」や「姿」などの「にすい」型の2画目部分は，明朝体のように下方へ点を打ってはねるような書き方ではなく，上の例のように書く方が一般的である。このことは，さんずいの3画目部分でも同様である。

3 明朝体に特徴的な表現の仕方があるもの

明朝体の字形と手書きの楷書の字形との間には、以下に挙げるような漢字の例のように、いろいろな違いがある。それらは、印刷文字と手書き文字におけるそれぞれの習慣の相違に基づく表し方の差であり、字形に違いがあっても、同じ字体として認めることのできるものである。それらを(1)～(5)に分類して示した。

(1) 折り方に関する例

明朝体の点画の折り方に特徴的な表し方があるものとして、以下のような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような明朝体の字形と手書きの楷書の字形との相違は、字体の相違にまで及ぶものではない。

ア 「ム」「ム」のような形を構成要素として有するもの。

構成要素の例	明朝体の例 — 手書きの楷書の例			
ム	雲 — 雲	去 — 去	公 — 公	など
ム	玄 — 玄	細 — 細	糸 — 糸	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
ム	育	雲	屋	会	絵	拈	去	強	芸	公	広	鈇	参	酸	至	私
	始	治	室	松	窓	総	態	転	伝	統	能	流	仏	弁	法	など
ム	絵	紀	機	級	給	系	係	経	結	潔	絹	玄	紅	後	細	糸
	紙	磁	終	縦	縮	純	織	績	絶	線	素	組	総	率	孫	統
	納	練	綿	緑	など											
亥	刻	該	骸	など												

イ 縦画のはねの表現に関するもの。

構成要素の例	明朝体の例 — 手書きの楷書の例			
衣	衣 — 衣	製 — 製	裏 — 裏	など
良	眼 — 眼	銀 — 銀	良 — 良	など
辰	唇 — 唇	振 — 振	震 — 震	など
氏	氏 — 氏	紙 — 紙	低 — 低	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
衣	衣 裁 製 装 表 俵 裏 など
良	飲 館 眼 郷 銀 限 根 食 節 退 飯 養 良 朗 など
辰	唇 振 震 農 濃 など
氏	氏 紙 低 底 など
民	民 眠 など
長	長 帳 張 など
その他	越 衰 喪 展 など

ウ 下ろした縦画を右に折る際の表し方に関するもの。

構成要素の例	明朝体の例	手書きの楷書の例	
比	階—階	混—混	比—比 など
𠂇	汚—汚	考—考	号—号 など
弓	引—引	弓—弓	など
匚	医—医	区—区	など
乚	断—断	直—直	など
凵	収—収		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
比	階 混 比 批 陞 など
𠂇	汚 顎 巧 考 号 など
与	写 与 など
弓	引 弓 強 弱 第 張 弟 費 など
儿	頑 競 微 など
卬	仰 迎 など
𠂇	貿 留 など
匚	医 区 など
乚	繼 梘 植 世 断 值 置 直 葉 など
凵	画 岩 岸 逆 胸 山 鹵 出 炭 島 惱 腦 密 など
女	安 案 桜 好 妻 始 姉 姿 数 接 努 婦 妹 要 など
母	海 毒 梅 每 など
貫	貫 慣 など
及	及 吸 級 など
その他	誤 収 [*] 母 卵 など

※ 「収」の「㇀」の部分は2画であるが、印刷文字の形が似ている「叫」「糾」などが3画であるため、混同されやすい。

(2) 点画の組合せに関する例

明朝体の点画の組合せ方に特徴的な表し方があるものとして、以下のような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような明朝体の字形と手書きの楷書の字形との相違は、字体の相違にまで及ぶものではない。

構成要素の例	明朝体の例 — 手書きの楷書の例		
水	永 — 永	水 — 水	など
氷	求 — 求	康 — 康	など
豕	家 — 家	象 — 象	隊 — 隊
人	欠 — 欠	次 — 次	人 — 人
辰	派 — 派	脈 — 脈	など
北	背 — 背	北 — 北	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
水	永 泳 承 蒸 水 泉 線 氷 など
氷	求 球 康 泰 緑 録 など
豕	家 象 像 隊 など
人	飲 火 歌 欠 次 秋 災 人 炭 談 欲 など
辰	派 脈
北	背 北
その他	印 久 [*] 備 など

※ 「久」の明朝体に「久」のように3画目が2画目の角の辺りに接するデザインのものがあるが、手書きの楷書では「久」と書き表すのが一般的である。

(3) 「筆押さえ」等に関する例

明朝体の特徴的な表し方に「筆押さえ」があり、以下のような漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような明朝体の字形と手書きの楷書の字形との相違は、字体の相違にまで及ぶものではない。

構成要素の例	明朝体の例	手書きの楷書の例					
史	史	史	使	使	吏	吏	など
之	芝	芝	乏	乏			など
入	込	込	入	入			など
入	詮	詮	喩	喩			など
八	公	公	船	船	八	八	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
史	史 使 吏 など
之	芝 乏 など
入	込 入 など
入*	詮 喩 など
八	穴 公 船 八 など
乚	延 建 健 鍵 誕 など
その他	丈

※ 「詮」「喩」など、明朝体の「入」とそれを手書きした際の「入」の字形の差異は、字体の違いに及んでいると考えられる場合がある。

(4) 曲直に関する例

明朝体では、手書きの楷書では曲線で書かれることの多い点画を直線的に表す場合があり、以下のような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような明朝体の字形と手書きの楷書の字形との相違は、字体の相違にまで及ぶものではない。

構成要素の例	明朝体の例	手書きの楷書の例					
子	学	学	子	子	好	好	など
手	拳	拳	手	手			など
了	承	承	蒸	蒸	了	了	など
矛	矛	矛	務	務			など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
子	学 季 教 好 孝 厚 子 字 熟 存 孫 乳 遊 など
手	拳 摯 手 摩 など
了	承 蒸 了 など
矛	矛 務 など
その他	極 呼 など

(5) その他

上記(1)～(4)のほか、明朝体に特徴的な表し方があるものとして、以下のような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような明朝体の字形と手書きの楷書の字形との相違は、字体の相違にまで及ぶものではない。

構成要素の例	明朝体の例	手書きの楷書の例		
ㄣ	近—近	述—述	連—連	など
ㄣ	遡—遡	遜—遜	謎—謎	など
ㄣ	簡—簡	笑—笑	箱—箱	など
心	心—心	総—総	必—必	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
ㄣ*	遺 運 遠 過 逆 近 週 述 進 選 送 造 速 退 達 追 通 適 道 導 辺 返 迷 遊 連 など
ㄣ*	遡 遜 謎 など
ㄣ	管 簡 筋 策 節 算 笑 築 答 第 笛 等 箱 筆 など
心	愛 惡 意 応 億 恩 感 急 憲 志 思 誌 心 誠 想 窓 総 息 態 忠 徳 念 秘 悲 必 忘 密 優 など

※ 「遡」「遜」「謎」など、明朝体で2点で表されるしんにゅうを有する字を手書きする場合について、常用漢字表では「ㄣ」（1点しんにゅう）と同様に「ㄣ」と書くとされているが、戸籍や住民基本台帳に関する窓口業務等においては、常用漢字表における字体・字形の考え方とは異なった取扱いがなされる場合もある。窓口業務等では、しんにゅうを含む漢字については、申請者が手で記載する際にも、1点しんにゅう（「ㄣ」）と2点しんにゅう（「ㄣ・ㄣ」）との書き分けが行われる場合がある。そのような書き分けを行う場合を含め、2点しんにゅうの漢字を「ㄣ・ㄣ」のように書いたものを誤りとすべきではない。

なお、明朝体においては、1点しんにゅう（「ㄣ」）と2点しんにゅう（「ㄣ」）は別字体として扱われる。

4 筆写（手書き）の楷書では、いろいろな書き方があるもの

手書きの楷書においては、以下に挙げるような漢字の構成要素及び漢字の例のように、字形に違いがあっても、同じ字体として認めることのできるものがある。それらを（１）～（６）に分類して示した。

（１）長短に関する例

漢字の点画の長短にいろいろな書き表し方があるものとして、以下のような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような長短の違いは、極端な場合を除いて、字体の判別の上で問題にならない。

ア 複数の横画がある漢字における、横画の長短に関するもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例				
舞	舞	舞	無	無	など
幸	幸	幸	報	報	など
天	蚕	蚕	天	天	など
三	三	三			など
夬	春	春	奉	奉	など
王	王	王	全	全	など
寺	寺	寺			など
亲	新	新	親	親	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例													
舞	舞	無	など											
幸	幸	報	執	など										
天	蚕	奏	天	など										
关	関	送	咲	など										
辛	辞	避	辣	など										
半	半	判	伴	など										
三	勤	業	群	耕	三	達	実	羊	洋	様	など			
夬	春	奉	棒	奏	など									
彡	残	浅	銭	など										
王	王	球	玉	現	皇	国	聖	全	程	班	宝	望	理	など

主	往 住 注 など
𠂔	義 議 差 着 養 など
𠂔	害 割 潔 憲 情 青 清 晴 精 静 責 積 績 素 毒 麦
	表 俵 など
生	生 星 産 性 など
𠂔	帰 急 当 雪 婦 など
禾	委 季
寺	詩 寺 持 時 待 等 特 など
亲	新 親 など
妻	妻 凄 など
五	五 語 悟 など
至	至 室 到 など
𠂔	卒 率 など
乍	作 昨 など
その他	案 寒 苦 構 講 事 書 章 垂 善 得 扌 票 豊 満 藥 など

イ 上部に「一」、下部に「冂」又は「口」のような形を有する漢字における、上部の「一」の長短に関するもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例		
雨	雨	雨	など
南	南	南	など
市	市	市	など
百	宿	宿	など
車	庫	庫	など
戸	肩	肩	など
	雲	雲	
	布	布	
	百	百	
	車	車	
	戸	戸	

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例	
雨	雨 雲 雪 電 など	
丙	病 柄 など	
冂	冂 など	
再	再 など	
南	南 献 など	
甫	捕 補 浦 など	

市	師	市	姉	布	など
百	宿	縮	百	など	
直	植	値	置	直	など
真	真	慎	など		
商	商	など			
商	適	敵	など		
西	西	など			
西	価	票	標	要	など
西	酸	酒	尊	配	など
面	画	演	など		
頁	顔	願	頭	題	類 順 額 領 預 頂 など
豆	豆	頭	短	など	
専	専	／	博	など	
車	運	揮	軍	軽	庫 車 転 輸 連 輪 など
束	束	速	整	など	
東	東	練	凍	棟	など
吏	使	吏	など		
更	便	更	硬	など	
亜	亜	悪	など		
卓	朝	潮	など		
戸	肩	所	戸	編	など
畐	富	副	福	など	
その他	策	面	融	など	

ウ 上下の組立てによって構成される漢字の、上下の幅の長短に関するもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例				
出	出	出	拙	拙	など
その他	岸	岸	署	署	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例				
出	出	拙	掘	屈	など
その他	員	岸	絹	罪	署 星 置 勇 など

エ 複数の縦画を有する漢字における、縦画の長短に関するもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例			
--------	------------------------	--	--	--

川	川	川	州	州	など
世	世	世	世		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
川	訓 川 州 順 など
世	世 葉 など

オ 画の長短が字体の判別に関わるものとして「士」と「土」^{※1}、「末」と「未」が挙げられるが、これらが別の漢字の構成要素になっている場合に、必ずしも長短を問題にする必要のないもの

構成要素	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
士	莊 莊 樹 樹 など
土	周 周 週 週 など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素	左のような構成要素を持つ漢字の例
士	喜 吉 ^{※2} 結 穀 樹 志 誌 声 莊 装 売 など
土	園 周 遠 週 捨 など

※1 「士」と「土」は、漢字の狭い部分にはまるような構成要素として用いられる場合には横画の長短が問題にならない場合がある。

※2 「吉」と「吉」は、一般には同じように用いることができるが、戸籍等では、使い分けが行われる場合がある。なお、漢和辞典等においては、「吉」を俗字とするものもある。

(2) 方向に関する例

漢字の点画の方向にいろいろな書き表し方があるものとして、以下のような例が挙げられる。ここに挙げる点画の方向の違いは、極端な場合を除いて、字体の判別の上で問題にならない。

ア 横画の中央上部にある点画の方向にいろいろな書き方があるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例				
一	京	京	方	方	など
宀	穴	穴	定	定	など
广	広	広	庁	庁	など
ネ	神	神			など
ネ	初	初			など
言	言	言	語	語	語
佳	集	集	難	難	討
					討
					討

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
一	暗	衣	位	意	育	液	億	音	顔	旗	泣	京	境	鏡	競	景
	激	交	校	航	高	効	刻	座	濟	産	市	姉	施	辞	主	就
	住	商	章	障	織	新	親	製	接	装	族	卒	率	対	滝	畜
	注	柱	停	適	敵	統	童	肺	倍	部	文	変	方	放	訪	亡
	忘	防	望	夜	遊	裏	立	流	旅	六	など					
宀	安	案	院	宇	演	家	嫁	害	額	割	完	官	寒	管	館	寄
	客	宮	穴	憲	察	字	室	実	寂	守	宗	宿	縮	宣	宅	宙
	貯	定	富	宝	密	容	など									
宀	究	空	窓	突	など											
广	応	拡	庫	広	康	鋤	序	床	席	庁	底	庭	店	度	糖	府
																など
疒	痛	病	疲	など												
良	飲	館	飼	食	飯	養	良	朗	など							
ネ	視	社	祝	神	祖	福	礼	など								
ネ	初	複	補	など												
佳	確	観	権	雑	集	準	進	推	難	奮	曜	など				
言	課	記	議	許	訓	計	警	謙	言	語	誤	護	講	詞	試	詩
	誌	識	謝	諸	信	誠	設	説	談	調	討	読	認	評	訪	訳
	論	話	など													
倉	倉	創	など													

イ 右から左にはらって書くことも、横画として左から右に書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例			
風	風	風		など
比	混	混	比 比	など
印	仰	仰	迎 迎	など
奏	奏	奏		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例										
風	風	嵐	など								
夭	添	橋	笑	など							
系	系	係	など								
属	属	嘱	など								
匕	化	花	貨	疑	死	指	老	能	態	北	など
比	階	混	比	批	陛	など					
考	考	拷	など								
印	印	仰	迎	抑	など						
𠂔	愛	受	授	留	など						
奏	奏	など									

ウ 点の方向にいろいろな書き方があるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例					
糸	紅	紅	紙	紙	など	
灬	魚	魚	魚	点 点 点	など	
舟	航	航	舟	舟	など	
羽	羽	羽	羽	曜	曜	など
雨	雨	雨	雨	雨	など	

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
糸 [※]	絵	紀	級	給	経	結	絹	紅	終	細	紙	縦	縮	純	織	績
	絶	線	組	総	統	統	納	編	綿	約	緑	練	など			
灬	魚	漁	鯨	黒	熟	照	蒸	鮮	然	鳥	点	熱	無	鳴	燃	験
	馬	駅	など													

舟	航 船 など
羽	羽 均 弱 習 曜 翌 など
雨	雨 雲 雪 電 など
火	炎 灰 災 秋 焼 炭 灯 燃 畑 など
忄	快 慣 情 性 など
州	州 酬 など
飛	飛 など

※ いとへんは、「彳」のように書く場合、通常、筆順も変わる。

エ 横画又は縦画で書くことも、点で書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
年	年 年 年 など
𠂔	偉 偉 偉 隣 隣 隣 など
戸	戸 戸 所 所 など
今	今 今 念 念 など
リ	帰 帰 帰 班 班 班 など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
年	年 など
𠂔	衛 偉 違 傑 隣 など
戸	肩 戸 所 編 など
弋	武 弋 など
今	含 今 念 など
令	令 冷 など
覽	覽 監 鑑 など
リ	帰 班 など

オ 縦画を垂直に書くことも、斜めに書くこともあるもの

構成要素	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
𠂔	真 真 など
𠂔	徳 徳 など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素	左のような構成要素を持つ漢字の例
𠄎	植 真 値 直 など
その他	徳 南 など

(3) つけるか、はなすかに関する例

漢字の点画をつけるか、はなすかについていろいろな書き表し方があるものとして、以下のような例が挙げられる。ここに挙げる点画のつけ方、はなし方の違いは、極端な場合を除いて、字体の判別の上で問題にならない。

ア 横画と、その中央上部の点画とを、つけて書くことも、はなして書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
一	主 主 主 立 立 立 など
宀	完 完 完 実 実 実 など
广	床 床 床 店 店 店 など
ネ	社 社 社 など
隹	推 推 推 曜 曜 曜 など
言	計 計 計 言 言 言 評 評 評 など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
一	暗 衣 位 意 育 液 億 音 顔 旗 泣 京 境 鏡 競 景 激 交 校 航 高 効 刻 座 濟 産 市 姉 施 辞 主 就 住 商 章 障 織 新 親 製 接 装 族 卒 率 对 滝 畜 注 柱 停 適 敵 統 童 肺 倍 部 文 変 方 放 訪 亡
宀	忘 防 望 夜 遊 裏 立 流 旅 六 など 安 案 院 宇 演 家 嫁 害 額 割 完 官 寒 管 館 寄 客 宮 穴 憲 察 字 室 実 寂 守 宗 宿 縮 宣 宅 宙 貯 定 富 宝 密 容 など
宀 广 广	究 空 窓 突 など 応 拡 庫 広 康 鉞 序 床 席 庁 底 庭 店 度 糖 府 痛 病 など
良	飲 館 飼 食 飯 養 良 朗 など
ネ	視 社 祝 神 祖 福 礼 など

ネ	初	複	補	など											
佳	確	観	権	雑	集	準	進	推	難	奮	曜	など			
言	課	記	議	許	訓	計	警	謙	言	語	誤	護	講	詞	試
	誌	識	謝	諸	信	誠	設	説	談	調	討	読	認	評	訪
	論	話	など												
倉	倉	創	など												
鳥	鳥	島	など												

イ ロ、冂などの内部にある横画の終筆を、右側の縦画につけて書くことも、はなしで書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例											
日	日	日	昭	昭	模	模						など
月	月	月	消	消	肺	肺						など
田	思	思	田	田	畑	畑						など
冂	婦	婦	当	当								など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
日 ^{※1}	意	易	億	音	温	白	楽	幹	旧	鏡	景	激	原	源	厚	皇
	根	混	最	昨	旨	指	飼	日	時	識	者	借	習	宿	縮	春
	書	暑	署	諸	昭	唱	傷	照	障	場	織	職	星	昔	泉	線
	早	層	増	題	担	暖	著	腸	潮	提	的	都	湯	得	晚	百
	復	腹	複	墓	暮	暴	幕	娘	明	盟	綿	模	葉	陽	量	など
目	遺	員	夏	貨	賀	貝	覚	額	看	慣	観	眼	顔	願	規	貴
	具	目	県	現	査	財	算	賛	視	資	自	質	首	順	助	賞
	植	親	省	責	積	績	祖	組	想	則	息					
	側	測	損	貸	値	置	貯	頂	直	賃	相	題	頭	道	導	敗
	買	箱	費	鼻	貧	負	貿	面	目	優	預	覧	領	類	など	
耳	嚴	耳	取	聖	など											
良	館	眼	郷	銀	限	食	節	退	養	良	朗					
倉	倉	創	など													
鳥	鳥	島	鳴	など												
門	開	閣	間	簡	聞	閉	門	問	など							
酉 ^{※2}	酸	酒	尊	配	など											
月 ^{※1}	胃	育	期	胸	筋	月	肩	絹	骨	散	消	勝	情	青	清	晴
	精	静	前	臓	態	朝	潮	能	脳	背	肺	肥	服	腹	望	脈

	明 盟 輪 有 朗 など
其	基 期 旗 など
身	射 謝 身 など
齊	濟 劑 齊 など
田	胃 異 界 魚 漁 細 思 層 増 男 町 田 畑 番 鼻 富
	副 福 奮 勇 略 留 など
由	演 横 画 黄 専 笛 宙 届 博 由 油 など
甲	押 果 課 戦 単 など
申	申 神 など
車	運 軍 庫 車 転 輸 輸 連 など
東	東 練 など
更	更 便 硬 など
里	黒 童 野 里 理 裏 量 など
重	重 動 働 種 など
曲	曲 典 豊 農 など
冉	構 再 など
冊	編 輪 論 など
用	備 用 など
甫	補 など
甬	通 痛 など
冂	帰 急 雪 当 婦 など
その他	俺 電 録 など

※1 「日」の「日」及び「月」の「月」の字形については、いわゆる旧字体として扱われている場合がある。

※2 「酉」は、口の内部の横画の始筆も終筆も、縦画とはなして書くことがある。

ウ 漢字の下部や狭い部分にある「木」「米」などの左右の払いの始筆を、つけて書くことも、「ホ」のようにはなして書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例	
木	案 案	保 保 など
米	齒 齒	迷 迷 など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例	
木	案 栄 果 課 楽 業 困 採 菜 殺 雑 集 条 乘 深 新	
	親 巢 染 操 探 築 茶 保 葉 葉 など	
米	齒 数 断 迷 類 など	

エ 「又」の1, 2画目, 「文」の3, 4画目などのように, つけて書くことも, はなして書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例		
又	技 技	返 返	又 又
文	対 対	文 文	

◇ 上記を含め, 同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
又	技	径	経	軽	護	穀	祭	最	際	殺	察	支	寂	取	受	授
	収	段	努	度	投	波	破	反	坂	板	版	皮	服	返	報	又
	役	友	など													
文	斉	濟	対	文	など											
又	改	救	教	敬	激	敵	故	散	修	数	政	整	敵	敗	放	牧
	枚	務	など													

オ 縦画を, それを挟む上下の横画に, つけて書くことも, はなして書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例		
立	立	立	立
無	無	無	
垂	垂	垂	

◇ 上記を含め, 同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
立	暗	位	億	音	意	顔	泣	競	鏡	辞	識	章	障	職	織	新
	親	童	倍	部	翌	立	など									
無	無	舞	など													
垂	垂	郵	など													
乗	乗	剩	など													

カ その他, つけて書くことも, はなして書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例				
ㄨ	登	登	発	発	など
疒	病	病			など
宀	究	究			など
白	右	右	石	石	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
ㄨ	登	発	など													
疒	痛	病	など													
宀	空	究	窓	など												
白	右	各	格	閣	確	額	谷	若	石	倉	創	浴	欲	名	落	略
	路	など														
下	下	峠	など													
共	異	共	供	選	など											
貝	遺	員	貨	賀	額	慣	願	貴	旗	具	賛	資	質	順	賞	積
	績	則	測	損	貸	頂	賃	買	費	貧	負	貿	預	領	類	など
圭	街	掛	など													
少	砂	少	省	歩	秒	など										
兄	銳	悦	閱	兄	祝	税	など									
その他	益	演	夏	歌	革	極	黄	誤	蚕	湿	春	焼	真	吹	昼	町
	溺	届	麦	幕	否	備	貧	不	武	兵	暮	奔	冥	夢	夜	養
																など

(4) はらうか、とめるかに関する例

漢字の点画の終筆をはらうか、とめるかについて、いろいろな書き表し方があるものとして、以下のような例が挙げられる。ここに挙げるような点画のはらい方、とめ方の違いは、極端な場合を除いて、字体の判別の上で問題にならない。

ア はらって書くこともとめて書くこともあるもの*

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例				
八	公	公	船	船	など
大	器	器	契	契	など

央	映	映	央	央	など
矢	医	医	矢	矢	など
文	敬	敬	修	修	など
木	困	困	床	床	など
禾	委	委	季	季	など
糸	給	給	系	系	など
卜	外	外			など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
八	益	沿	公	松	船	総	貧	分	など							
今	今	念	など													
人	飲	歌	欠	姿	資	次	欲	食	全	答	輪	など				
衣	装	表	俵	など												
艮	眼	銀	限	根	食	養	など									
園	園	遠	など													
宀	因	恩	寄	器	契	実	然	燃	美	奮	墓	暮	模	類	など	
夫	漢	賛	など													
央	英	映	央	など												
禾	橋	奏	笑	など												
矢	医	候	族	など												
失	失	鉄	など													
夊	春	奉	棒	奏	など											
夊	快	決	など													
火	灰	炭	談	など												
尺	駅	沢	積	など												
夂	救	教	敬	警	激	故	後	修	数	整	敵	敗	枚	など		
又	技	径	経	軽	護	穀	祭	最	際	殺	察	支	寂	取	受	授
	収	段	努	度	投	波	破	反	坂	板	版	皮	服	返	報	役
夂	險	検	験	など												
木	案	采	果	課	楽	株	休	業	困	查	採	菜	策	朱	集	床
	条	乘	深	森	染	巢	操	体	探	築	保	木	本	葉	葉	来
	林	歴	など													
束	束	速	頼	など												
禾	委	季	番	など												
米	齒	米	迷	など												

水	隊 家 など
	承 蒸 など
氷	求 球 様 康 など
夕	友 など
	各 格 閣 客 条 冬 略 路 など
及	級 吸 など
糸	絵 紀 級 給 系 係 経 結 潔 絹 紅 終 細 糸 紙 縦
	縮 純 織 素 績 絶 線 組 総 続 孫 統 納 編 綿 約
	緑 練 など
ト	外 赴 など
小	願 景 京 県 原 源 砂 寂 小 少 省 歩 など
示	禁 祭 際 票 標 など
ホ	茶 余 など
	述 術 など
父	効 校 父 など
共	異 供 港 選 暴 など
その他	旅 など

※ 右はらいをとめて書く場合には、始筆がはなれることが多い。((3)ウ参照)

イ 右上にはらって書く横画をまっすぐとめて書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例	
土	域 域	増 増 など
女	好 好 好	姉 姉 姉 など
耳	耳 耳	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例	
土	域 塩 街 境 均 城 場 勢 増 地 熱 坂 など	
工	功 式 など	
王	球 現 班 理 など	
正	政 疎 武 路 など	
里	野 など	
重	動 働 など	
金	鏡 銀 鋳 鋼 銭 鉄 銅 録 など	
豆	頭 樹 など	
垂	郵 など	

董	勤	など
比	階	混 比 批 陸 など
女	好	数 始 姉 妹 など
子	熟	孫 乳 など
彳	段	など
舟	航	船 など
丰	邦	など
北	北	など
非	罪	俳 非 悲 など
耳	蔽	最 耳 取 趣 職 聖 聞 など
以	以	似 など
匕	切	など
匕	望	など
己	改	選 など

ウ 左部分の縦方向の画の終筆をとめて書くことも、はらって書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例	
冂	骨	骨
角	角	角
周	周	周
	消	消
		など
		など
		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例	
冂	胃 育 筋 肩 絹 骨 散 消 情 青 清 晴 精 静 前 能	
	背 望 盟 輸 有 朗 など	
井	困 耕 など	
卩	算 鼻 弁 など	
开	開 形 型 研 など	
用	通 痛 用 など	
角	解 角 など	
周	周 週 調 など	
非	非 悲 俳 排 など	
その他	介 界 刊 濟 冊 赤 判 など	

エ 最終画又は構成要素の最終画となる縦画の終筆をとめて書くことも、はらって(ぬ

いて) 書くこともあるもの

構成要素の例	左の構成要素を持つ漢字の書き表し方の例						
十	許	許	十	十	中	中	など
巾	常	常	布	布			など
卩	都	都	郵	郵			など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
十	華	解	革	干	幹	岸	牛	叫	許	計	件	午	幸	辞	十	準
	章	早	障	申	神	針	单	早	草	率	卒	单	中	仲	忠	年
	半	評	平	棒	用	南	など									
巾	希	婦	市	姉	師	常	席	掃	帚	肺	布	婦	幕	綿	など	
冂	印	節	命	卵	など											
川	訓	州	川	など												
井	井	困	耕	など												
卩	算	鼻	弁	など												
开	開	形	型	研	など											
卩	院	階	郷	郡	險	限	降	際	除	障	隊	都	部	陞	邦	防
	郵	陽	陸	など												
介	界	など														
斤	近	所	新	折	断	など										
ㄩ	降	偉	瞬	など												
卩	械	戒	など													
丰	拜	邦	峰	など												
羊	群	達	羊	洋	など											
弗	費	沸	など													
聿	建	健	筆	律	など											
車	運	揮	軍	庫	車	連	など									
齊	齊	濟	齋	など												
その他	引	科	今	耳	料	論	など									

(5) はねるか、とめるかに関する例

漢字の点画の終筆をはねるか、とめるかについて、いろいろな書き表し方があるものとして、以下のような例が挙げられる。ここに挙げるような点画のはね方、とめ方の違いは、極端な場合を除いて、字体の判別の上で問題にならない。

ア 縦画の終筆をはねて書くことも、とめて書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例				
木	机	机	木	木	など
禾	委	委	積	積	など
牛	特	特	牧	牧	など
糸	絹	絹	糸	糸	など
小	県	県	少	少	など
袁	園	園	遠	遠	など
門	門	門	問	問	など
示	禁	禁	示	示	など
彳	衆	衆			など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
木	案	桀	桜	横	果	課	械	楽	株	机	機	休	橋	業	極	検
	権	校	耕	構	困	根	查	採	菜	材	策	札	殺	雜	刺	枝
	朱	樹	集	床	松	条	乘	植	深	森	新	親	染	相	巢	想
	操	村	体	探	築	柱	梅	箱	板	標	保	棒	木	本	枚	模
	葉	葉	様	来	林	歴	など									
未	妹	未	味	など												
末	末	など														
束	整	束	速	など												
東	東	練	など													
禾	委	移	科	季	穀	私	種	秋	称	税	積	程	秘	秒	利	和
																など
耂	耕	耗	など													
米	奥	鹵	数	精	断	糖	米	粉	迷	料	類	など				
犛	特	物	牧	など												
彳	将	状	装	など												
糸	絵	紀	級	給	系	係	経	結	潔	絹	紅	終	細	糸	紙	縦
	縮	純	織	素	績	絶	線	組	総	続	孫	統	納	編	綿	約
	緑	練	など													

示	祭 示 察 票 際 禁 宗 など
ホ	茶 など
ホ	述 術 など
不	否 不 など
弔	第 弟 など
袁	園 遠 など
派	派 脈 など
小	小 少 京 原 病 県 省 願 景 余 砂 源 就 除 など
才	才 材 財 閉 など
水	永 泳 求 球 救 康 承 蒸 水 氷 暴 録 など
門	門 間 聞 開 問 関 閣 閉 簡 など
過	過 旅 など
彖	衆 など

イ 縦に下ろして右に曲げる点画（L）の終筆を，とめて書くことも，はねて書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例					
ヒ	指	指		陞	陞	など
己	改	改	改	起	起	など
儿	四	四		陸	陸	陸
宀	空	空	空			など

◇ 上記を含め，同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例														
ヒ	化	花	貨	傾	疑	死	指	老	旨	態	能	背	陞	北	など
己	改	卷	記	起	紀	港	配	包	選	など					
尤	就	稽	蹴	など											
几	机	航	穀	殺	処	設	段	投	盤	役	など				
九	究	雑	など												
儿	完	見	規	境	元	現	四	西	勢	熱	陸	など			
七	七	切	など												
亡	亡	忘	望	など											
宀	空	究	窓	など											
酉	酒	尊	配	など											
その他	電	俺	など												

(6) その他

そのほか、漢字の点画について、いろいろな書き表し方があるものとして、以下のような例が挙げられる。ここに挙げるような違いは、極端な場合を除いて、字体の判別の上で問題にならない。

ア 点画が交わるように書くことも、交わらないように書くこともあるもの

構成要素の例	左の構成要素を持つ漢字の書き表し方の例				
女	桜	桜	妹妹妹	女 女	など
ト	外	外			など
才	才	才	材 材	閉 閉	など
耳	耳	耳			など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
女	安	案	委	桜	好	妻	始	姉	姿	女	数	努	婦	妹	要	など
ト	外	掛	訃	など												
才	材	財	閉	など												
耳	嚴	最	耳	取	趣	職	聖	聞	など							
ヒ ^{※1}	化	花	貨	死	など											
又	祭	際	察	など												
リ	収	など														
母	貫	など														
身 ^{※2}	謝	射	身	など												
辰	農	震	振	など												
長	長	帳	張	など												
非	罪	非	悲	など												
夜 ^{※3}	夜	など														
亻	在	存	など													

※1 「化」や「花」で「ヒ」のように交差する形については、辞書等によっては旧字体とされる場合もある。

※2 「身」は、最終画「ノ」だけでなく、長い横画が右の縦画より右に出る形で書かれることがある。

※3 「夜」は、最終画の一つ前の点を下の方向に出して書くことがある。

イ 縦画を曲げて書くことも、まっすぐ書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例				
于	芋	芋	宇	宇	など
争	淨	淨	争	争	など
矛	矛	矛	務	務	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例			
于	芋	宇	など	
争	淨	静	争	など
矛	矛	務	など	

※ 「子」「手」「了」など、印刷文字では縦画を直線で表すが、手書きの際には、曲線を使う方が一般的なものがある。それらを印刷文字に従って直線で書いたものについても、誤りとは言えない。(3 (4) 参照)

ウ 点画の接触の位置に関するもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例				
尺	駅	駅	尺	尺	など
氷	求	求	録	録	など
白	白	白			など
尢	就	就			など
蓐	備	備			など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例					
尺	駅	尺	訳	など		
大	参	奮	奪	添	奔	など
天	蚕	など				

夬	春 奏 など
水	永 泳 承 蒸 水 氷 など
氷	求 球 救 康 暴 録 など
衣	表 袂 裏 喪 など
展	展 など
長	長 帳 張 など
辰	農 震 振 など
彖	衆 など
白	樂 皇 白 百 など
向	向 など
自	師 など
鳥	鳥 島 など
呂	宮 宮 呂 など
夕	夕 多 など
石	確 岩 砂 磁 石 破 など
尢	就 蹴 など
尢	沈 枕 など
无	既 概 など
丘	丘 岳 など
肅	備 など
その他	界 養 など

エ その他

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
令 叱	令令令令令令 冷冷冷冷冷冷 など 叱叱叱叱

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
令 叱 [※]	領 鈴 令 冷 など 叱

※ 「叱」は本来「叱」とは別字であり、漢字字典では口を開ける様を意味し「カ」という音を持つ漢字とされているが、この字体も「シツ・しかる」として広く使われていることから、異体の関係にある同字と認められる。

5 筆写（手書き）の楷書字形と印刷文字字形の違いが、字体の違いに及ぶもの

現行の常用漢字表においては、従前のおり「印刷文字における現代の通用字体」が示され、削除した5字を除いて、昭和56年の常用漢字表の掲げた通用字体が全てそのまま継承された。

しかし、新たに常用漢字表に追加した196字については、社会における特に印刷文字の字体の安定性を損なうことがないように、当用漢字字体表及び昭和56年の常用漢字表に準じた字体の整理を行うことはせず、原則として、当該の字種における一般の書籍での最も使用頻度の高い字体を採用することとした。その結果、平成12年の国語審議会答申「表外漢字字体表」が示した「印刷標準字体」と「人名用漢字」の字体を通用字体として掲げることとなった。（「曾」「瘦」「麵」については、印刷標準字体として「曾」「瘦」「麵」が掲出されていたが、常用漢字表では生活漢字としての側面を重視し、「簡易慣用字体」とされていた字体を採用した。）

このことにより、昭和56年から常用漢字表に採用されていた漢字の字体との間で、「道／遡」「飲／餅」「臭／嗅」「歩／捗」「幣／蔽」などのように、同じ構成要素を持ちながら、字体上の差異があるものが生じた。

そして、こうした字体上の差異は、印刷文字と手書き文字との間にも影響し、印刷文字と手書き文字の習慣による字形との間の相違が、字体の違いにまで及ぶ場合が生じることとなった。その手当てとして、「(付) 字体についての解説」において、これらの漢字を実際に手書きする際の参考となるよう、具体例が示されているところである。

以下に挙げるものは、常用漢字表の採用した通用字体と手書き文字におけるそれぞれの習慣の相違に基づく表し方の差が、字体（文字の骨組み）の違いに及ぶものである。左は手書きの楷書の習慣による字形の例、右は印刷文字である明朝体の字形に倣って書いたものであるが、手書きの楷書ではどちらの字形で書いても差し支えない。なお、「手書きの楷書の習慣による例」に挙げたもののうちには、現代において、実際に広く用いられているとは言い難いものもあり、明朝体に倣った字形の方が手書きする場合の字形としても一般的な場合がある。







(1) 方向に関する例



該当字種	手書きの楷書の習慣による例		明朝体の字形に倣った手書きの例
茨	茨	茨	茨
恣	恣	恣	恣
蔑	蔑	蔑	蔑
煎	煎	煎	煎

嘲	嘲	など	嘲	など
溺	溺	など	溺	など
淫	淫	など	淫	など
蔽	蔽	など	蔽	など

(2) 点画の簡略化に関する例

該当字種	手書きの楷書の習慣による例	明朝体の字形に倣った手書きの例
嗅	嗅	嗅
賭	賭	賭
箸	箸	箸
餌	餌	餌
餅	餅	餅
遡	遡	※
遜	遜	※
謎	謎	※
葛	葛	葛
僅	僅	僅
箋	箋	箋
填	填	填
頰	頰	頰

※「遡」「遜」「謎」について、明朝体の字形に倣った手書きの例を示していないのは、常用漢字表が「」も手書きでは「」と同様に「」と書く」としていることに基づいたものである。日常生活における漢字使用においては、「」も「」も、手書き字形としては同じ「」の形で書くことが一般的である、という認識を社会全般に普及していく必要がある。

ただし、歴史的にも、手書きにおける2点のしんにゅうの例は少なからず存在し、現在においても、例えば、戸籍行政などでは、「」と「」が別字とされ、

手書きでの記入に当たっても書き分けられるように、主に人名や固有名詞等に関わる場合など、「し」（「し」）と「し」（「し・し」）の使い分けが行われることがある。2点しんにゆうの漢字を「し・し」のように書いたものを誤りとすべきではない。

(3) その他

該当字種	手書き楷書の習慣による例	明朝体の字形に倣った手書きの例
彙 剝 詮 諭 牙 惧 稽 叱 抄	彙 剝 詮 諭 牙 惧 稽 叱 抄 など など など など など など など など など	彙 剝 詮 諭 牙 惧 稽 叱 抄 など など など など 牙 など など など など